

4

暑い季節を快適に

教師用指導例

6年 開隆堂版 p.13

めあて

暑い季節をすずしく過ごすため、住まい方や着方のくふうをしよう。

【学習指導要領との関連】内容 C 快適な衣服と住まい

(1) 衣服の着用と手入れについて、次の事項を指導する。

ア 衣服の働きが分かり、衣服に関心をもって日常着の快適な着方を工夫できること。

イ 日常着の手入れが必要であることが分かり、ボタン付けや洗濯ができること。

【アクティブ・ラーニングを意識した授業の流れ】

1 課題を見つける

- 説明 1
- 前の時間では、「すずしい住まい方のくふう」を学習しました。今日は、暑い季節を快適に過ごすための服装について考えます。
- 指示 1
- 家庭科楽習ノートの13ページ、【①調べよう】。暑い季節の服装と寒い季節の服装を比べています。寒い季節の特徴を参考にして、暑い季節の服装の特徴を表に書きましょう。
- ※寒い季節の着方とどのように違うのかをおさえる。教師用書の赤字の例以外に、以下の性質について触れてもよい。
- ・保温性…熱を逃がしやすいか
 - ・通気性…空気を通しやすいか
 - ・吸水性…汗をよく吸い取るか
 - ・透湿性…湿気を外に逃がしやすいか

2 課題を追究する

- 発問 1
- 夏休み、家族でとある山に行くことになりました。山で気持ちよく快適に過ごすためには、どんな衣服を着て行きますか。
- (→これだけでは決められない)
- どんな情報があれば持って行く服装を決められますか。
- ・行く土地の最高気温（昼）と最低気温（夜）
 - ・行ったところで何をするか
 - ・どんなところに泊まるか
 - ・どれくらい泊まるか
- ※その他、適宜必要な情報を子供たちとやりとりしながら板書する。
- 説明 2
- 山での情報は次の通りです。
- ※板書か事前に書いておいた紙を掲示する。
- ・最高気温25度、最低気温10度
 - ・山登りをする
 - ・テントで泊まる
 - ・1泊2日
- 発問 2
- 家族で山登りをする事になりました。どんな衣服を着て行きますか。

- 指示 2
- 自由ノートに必要な服装とその理由を書きましょう。
- ※【山に行くときの服そう（表）】（別紙 PDF）に記入することもできます。
- (例)

着ていく物 持っていく物	数	特徴 (そで・えり・色・布の厚さなど)	理由
Tシャツ	2	半そで、白、うす手	熱中症にならないようにするため。
パーカー	1	水をはじく素材のもの	夜は気温が下がるし、雨がふるかもしれないから。
タンクトップ (下着)	3	汗を吸い取る素材のもの	日中あせをかけた場合と、夜ねる前に下着をかえて、はだを清潔に保つため。
長ズボン	1	のび縮みする、うす手	テントでねるとき、虫さされを防ぐため。
ぼうし	1	風通しがよいもの	山は日差しが強いから。

※早くできた子、または教師の意図する服装を書いている子に、自分の考えた服装を板書させる。

※一通りの服装を3～4人程度板書させ、それについて次に討論する。

3 討論する 4 異なる考えを認める

- 指示 3
- 黒板に書かれた意見に、質問や付け足し、反対意見がある人はいますか。立って意見を言います。
- 質問、反対意見が出されたら、書いた人は必ず立って答えます。
- 答えられない時は、『調べます』や『答えられる人いますか』と聞いてみます。
- ・Tシャツと半ズボンには反対です。山の中を歩く時に、けがをしないように長そで、長ズボンを着た方がいいと思います。
 - ・山登りのときはあせをかいて不衛生なので、かえの下着も持って行くとよいです。
 - ・帽子を付け足した方がいいと思います。暑くて熱中症になるかもしれないから、頭を守った方がいいと思うからです。
- ※天気や気温、活動に合わせた着方だけでなく、アウトドアではあせやよごれが衣服につきやすいことを想定して、着替えを用意する等の工夫もおさえる。

5 まとめる

- 説明 3
- 天気や気温、活動に合わせた着方で、暑い季節でも気持ちよく快適に過ごすことができます。
- 発問 3
- 先ほど「あせやよごれが衣服につくため、着替えを用意したほうがよい」という意見が出ていました。衣服がよごれたままにしておくと、なぜよくないのでしょうか。
- ※ノート p.13 【②調べよう】で衣服をよごれたままにしておくとよくないわけをまとめる。

山に行くときの服そう

年 組 番 なまえ

[illegible]

6

くふうしようおいしい食事

教師用指導例

6年開隆堂版 p.24～25

めあて

栄養のバランスのとれた1食分のこんだてを考えよう。

【学習指導要領との関連】内容B 日常の食事と調理の基礎
(2) 栄養を考えた食事について、次の事項を指導する。
ア 体に必要な栄養素の種類と働きについて知ること。
イ 食品の栄養的な特徴を知り、食品を組み合わせるとる必要があることが分かること。
ウ 1食分の献立を考えること。

【アクティブ・ラーニングを意識した授業の流れ】

1 課題を見つける

発問1 前の時間では、献立を立てる時に考えること3つをもとにして、作ってみたい献立について考えました。3つとは何でしたか。(ノート p.22 【②調べよう】)

①栄養のバランスを考える。
②食品の種類や分量を考える。
③調理のしかたを考える。

説明1 今日は、ある家族の、ご飯とみそ汁を中心とした1食分の献立を考えます。家族の構成は次の通りです。

・祖母
・父
・母
・自分
・弟

※家族の設定については、学級の状況に応じて変更ください。
※「自分のために」ではなく「家族のために」という視点が入ることを意識させる。

2 課題を追究する

発問2 献立を立てる時に考える3つのことのほかに、考えるとよいことは何ですか。

・家族の好み(家族全員がおいしく食べられる献立にする)
・食べやすさ(家族が高齢でも食べやすい大きさや味つけにする)

※ほかに献立のいりどり、家族のアレルギーの有無等に触れてもよい。
では家族が好きなものや祖母の年齢などの情報を教えます。

家族構成	年齢	好きな食べ物	苦手な物
祖母	78	じゃがいも	かたい物
父	45	肉、だいこん	とくになし
母	43	卵、魚、ほうれんそう、わかめ	納豆
自分	12	卵、トマト、チーズ	とくになし
弟	9	肉、ツナ	ピーマン

※ここでは全員が食べ物のアレルギーを持っていない設定とする。

指示1 家族の構成をもとにして、ご飯とみそ汁を中心とした1食分の献立を考え、24ページの【①やってみよう】に書きましょう。書けたら、右のページの表にシールを貼り、栄養のバランスを確かめます。

※早く献立を立てられた3、4名の児童に画用紙を渡し、献立を書かせておき、書けたら黒板に貼らせておく。その画用紙を、次の討論の時に発表させる。

※ノートの裏表紙【栄養素のおもなはたらきによる食品の分類】を参考にすることができます。

3 討論する 4 異なる考えを認める

指示2 それでは黒板の前に出て発表します。(画用紙を貼ってある児童)

・私は、みそ汁の実にだいこんとわかめ、油あげを使いました。父と母が好きだからです。そして、おかずをジャーマンポテトにしました。祖母が好きなじゃがいもと、父や弟が好きな肉であるベーコンが入っているからです。さらに、栄養のバランスをよくするために、にんじん・トマト・ブロッコリーの入ったゆで野菜サラダを加えました。

・私は、みそ汁の実に祖母が好きなじゃがいもと、たまねぎを使いました。そして、おかずをオムレツにしました。具は、にんじんやほうれんそうで、ビタミン豊富です。無機質の食品が不足していたので、昆布の佃煮を加えました。

今の意見に、質問や付け足し、反対意見がある人はいますか。立って意見を言います。
質問、反対意見が出されたら、書いた人は必ず立って答えます。
答えられない時は、『調べます』や『答えられる人いますか』と聞いてみます。

※これを何度か繰り返す。
※好みだけでなく、献立を立てる時の基本である①栄養のバランスを考える。②食品の種類や分量を考える。③調理のしかたを考える。の3点を常に意識させる。

5 まとめる

説明3 家族や身近な人のために献立を考えるとときは、栄養のバランスだけでなく、家族の好みやふだんの食べ方についても考えましょう。

板書の例

●

●

みそしる
(だいこん・わかめ・油あげ)
ジャーマンポテト
ゆで野菜サラダ
(にんじん・トマト・ブロッコリー)

●

●

みそしる
(じゃがいも・たまねぎ)
オムレツ
こんぶのつくだに

●

●

みそしる
(ねぎ・だいこん)
ツナの卵いため
キャベツとこんぶのサラダ

7

共に生きる生活

教師用指導例

6年 開隆堂版 p.28

めあて生活をよりよくするためのくふうを考えよう。

【学習指導要領との関連】内容 A 家庭生活と家族
(3) 家族や近隣の人々とのかかわりについて、次の事項を指導する。
ア 家族との触れ合いや団らんを楽しむ工夫をすること。
イ 近隣の人々とのかかわりを考え、自分の家庭生活を工夫すること。

【アクティブ・ラーニングを意識した授業の流れ】

1 課題を見つける

- 説明 1「わたしたちの生活と地域」という勉強をします。家庭科楽習ノート 28 ページを開きます。
- 発問 1【①やってみよう】。ある町の様子です。絵を見て、分かったこと、気がついたこと、思ったこと、どんなことでも構いません。できるだけたくさん、お隣の人と言い合ひましょう。
- 指示 1【①やってみよう】。地域の環境がよくなるために必要なところが青で囲まれています。シールの㊟にあてはまるシールを貼ります。
- 指示 2貼れた人は、なぜそれが地域の環境が良くなることにつながるのか、その横に理由を書いておきます。
- 指示 3できた人は、②～④までも同じようにやってみます。
※できたら答え合わせをする。

2 課題を追究する

- 発問 1ノートの町と同じように、自分の生活の仕方や地域の環境がもっとよくなったらいいなと思うことがありますね。自分が気になっていることを、【②調べよう】の気づいたことにかきます。
※物やエネルギーの使い方、資源を生かす活動、地域社会でのルールやマナーなどについて考えさせる
とよい。
- 説明 2どんな問題があるか、班（グループ）ごとに発表し合ひます。
- 指示 1話し合えたら、改善のためのくふうを書いておきます。

- 指示 2改善のためのくふうを班（グループ）で発表し合ひます。その後、いいと思ったものを班で一つ黒板に書きに來ます。
※書けたら前に持ててこさせ、黒板に書かせて待たせておく。
(以下のような記入の例を参考として示してもよい。)

記入例	気づいたこと	改善のためのくふう
物の使い方	お店のセールで調理の材料をたくさん買ひ、結局くさらせてしまった。	ごみを増やさないように、調理の材料は計画を立てて、食べる分だけ買う。
エネルギーの使い方	電気ストーブの温度はなるべく高くして、日中はずっとつけている。	エネルギーを節約してするために、ストーブの置き方を変えたり、重ね着をしたりする。
資源を生かす活動	燃やすごみと空きかん・ペットボトルを同じ袋に入れて捨ててしまう。	空きかんやペットボトルを資源として再利用できるように、分別して出す。
地域社会でのルール	地域のごみ置き場がカラスで荒らされて、きたなくなっていた。	カラスが荒らさないように、ネットをはってもらえるよう町会の方にお願ひする。
地域社会でのマナー	横断歩道前の点字ブロックの上に、自転車がとまっていた。	地域の決まった場所に自転車をとめるようにポスターで呼びかけ、自分も気をつける。

3 討論する 4 異なる考えを認める

- 指示 3それでは黒板の前に出て発表してもらいます。気づいたことは〇〇です。改善のために、〇〇をしたらいいと思います、のように班ごとに発表します。
今の意見に、質問や付け足し、反対意見がある人はいますか。立って意見を言ひます。
質問、反対意見が出されたら、書いた人は必ず立って答えます。
答えられない時は、『調べます』や『答えられる人いますか』と聞いてみます。

5 まとめる

- 説明 1今回は、わたしたちの住んでいる地域について改善策を考えることができました。これから中学生になり、地域で活躍することがますます期待されています。自分たちの生活のしかたや地域をよりよくするという視点を持ち続けていきましょう。

板書の例

気づいたこと	改善のためのくふう
お店のセールで調理の材料をたくさん買ひ、結局くさらせてしまった。	ごみを増やさないように、調理の材料は計画を立てて、食べる分だけ買う。
電気ストーブの温度はなるべく高くして、日中はずっとつけている。	エネルギーを節約してするために、ストーブの置き方を変えたり、重ね着をしたりする。
燃やすごみと空きかん・ペットボトルを同じ袋に入れて捨ててしまう。	空きかんやペットボトルを資源として再利用できるように、分別して出す。